

# 国見(くにみ)

登録番号：第353号

育成者：金戸橋夫 志村 勲

登録年月日：昭和58年2月24日

千葉 勉 町田 裕

登録者：農林水産省果樹試験場

壽 和夫

(茨城県つくば市藤本2-1)

来 歴：「丹沢」と「石鎚」の交雑実生

## 特 性

### ■栽培特性

樹姿はやや開張性で、樹勢は「伊吹」に比べてやや弱い。若木時代の枝の伸長は旺盛であるが、樹齢が進むにつれて樹冠の拡大は緩やかになり、「石鎚」より小形の樹冠を形成する。枝の発生は「伊吹」より少ない。発芽期、落葉期ともに「丹沢」、「伊吹」とほぼ同時期である。雌花の着生は「伊吹」程度であるが、生理落果が少なく、若木時代の果実収量は「伊吹」より多い。成熟期は「丹沢」と「筑波」の間で、ほぼ「伊吹」と同時期であり、関東地方では9月中旬頃である。

### ■果実特性

きゅう果は偏球形で、大きさはやや大きくて「丹沢」、「筑波」と同程度である。きゅう果の外観は「石鎚」に似る。きゅう梗の離脱は容易で、いが落ちることが多い。果実はほぼ円形であるが、果実肥大が不十分な場合には「丹沢」に似た帯円三角形になることもある。また、左右非対称で、ややいびつな果実が混じることも多い。外グリはやや厚みを欠き、中グリとの接触面はわずかにへこむことがある。平均果重は約25gで「伊吹」と同じ程度の大き果になる。果皮は褐色で、光沢があり、外観が美しい。果肉は淡黄色で「伊吹」より淡い。肉質は「伊吹」に比べて粘質で、甘味がやや少ないが、香気がある。双子果は少ないが、渋皮が果肉に深く陥入した果実が混じることもある。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

若木時代の生育は旺盛で、果実の肥大も良好であるが、樹齢が進むにつれて樹勢が低下しやすく、果実も小果になりやすい傾向がみられる。樹勢の維持を主眼においた集約的な栽培管理が必要である。クリタマバチ抵抗性は「丹沢」、「筑波」に比べてはるかに強く、「石鎚」と同程度であり、虫えいの着生はほとんどみられない。モノゴマダラノメイガの被害は「伊吹」に比べて少なく、胴枯病にやや強い方で、発生は「伊吹」より少ない。樹齢が進み、樹冠内部が混雑してくると実炭そ病の発生が増加しやすくなるので、園内を明るく維持し、間引きを中心にした剪定を確実に実施する。

### ■地域適応性

「国見」は気候的にはわが国のクリ栽培地帯の全域に適應すると思われる。しかし樹齢の進むにつれて樹勢が衰弱しやすいので、土層の深い肥沃地での集約的管理による栽培に適している。本品種は「丹沢」と「筑波」の間、ほぼ「伊吹」と同じ時期に収穫できる品種であるが、「伊吹」に比べてクリタマバチに強いのが大きな特徴である。クリタマバチについては中国から導入された天敵の放飼試験中であり、試験開始後約10年を経過した現在、順調に定着するであろうとの見通しである。しかし、天敵が全国的に定着するまでには今後さらにはかなりの年月を要すると考えられている。本品種はその特徴を活かして着実に普及面積を拡大し、平成2年度の栽培面積は1,200haを超え、わが国のクリ栽培面積の3.8%を占めるまでになっている。栽培面積が多い地域としては茨城県、熊本県、栃木県が上位3県で、大分県、京都府、宮崎県がこれに続いている。

(壽 和夫)